

B—52 絹の洗たくに関する研究 第6報
各種洗剤の吸着と絹繊維の吸湿性との
関係

農林省蚕糸試験場 皆川 基
○飯坂 久子
学習院女子短大 斎藤 道香

1. 洗たく時における洗剤の吸着は絹繊維の吸湿性をかなり変化させ、黄褐変および収縮などの欠点現象を発生する他に絹特有の風合を害することが多いので、各種の洗剤を用いて洗たくした場合に絹繊維に吸着される量と、その吸湿性との関係を明らかにすることを目的としている。

2. 各種の単一活性剤ならびに市販家庭用洗剤などを用いて洗たくを行ない、活性剤の吸着量と絹繊維の吸湿性(RH 90%, RH 65%, RH 40%, $20 \pm 2^\circ\text{C}$ の3種の関係湿度状態における)との関係を検討した。

3.

(イ) いずれの活性剤、洗剤でも、その吸着量が増すにつれて吸湿度を増加する傾向が顕著に認められ、特にセッケンにおいて、その傾向が大きい。しかし、活性剤間の吸着量と絹繊維の吸湿度との間には相関関係が認められない。

(ロ) セッケン、アルキルナフタレンスルホン酸ソーダ塩、アルキロールアミドなどが絹繊維に吸着すると高、低湿度状態のいずれにおいても吸湿度が大きい。アルキルベンゼンスルホン酸ソーダ塩、ラウリルサルフェートなどが絹繊維に吸着すると前者の活性剤に比しかなり吸湿性が低下し、無処理原糸のそれと大差がない。

(ハ) 市販家庭洗剤を用いた場合にはいずれの湿度状態においてもライトデューティ合成洗剤、セッケン、ヘビーデューティ合成洗剤の順に絹繊維の吸湿度が低下する。